

先輩職員からのメッセージ

Design the Future

日本の未来を一緒に描いてみませんか。



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

Contents

総務省入省後のキャリアステップの一例	2
--------------------	---

行政制度の管理運営

世界を知り、日本に活かす	人事・恩給局労働係 併任 国際係 鈴木 友香	4
ICT の活用による政府の自己変革について	行政管理局行政情報システム企画課長 橋本 敏	5
お会いするのを楽しみにしています！	統計局総務課情報管理専門官 併任 調査企画課企画係長 越 有二	6
統計の国際協力を通して	統計局総務課国際第二係長 中川 友紀子	7
経済効果〇〇億円？の謎がここに	政策統括官(統計基準担当)付統計審査官付統計審査担当主査 永井 一郎	8
先輩の一日 こんなお仕事しています！	行政評価局評価監視官付 佐藤 友佳	9

地方自治行政

「市町村」について考えてみよう	自治行政局市町村課体制整備第一係長 併任 体制整備第二係長 併任 合併支援係長 伊良部 直	10
総務省の多彩な魅力	自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室給与第一係長 藤巻 詩子	11
地方負担の調整という仕事	自治財政局調整課企画係長 西崎 吏	12
いつかまた笑える日まで	自治税務局市町村税課住民税第二係長 併任 調査係長 榎戸 芳文	13
消防庁で勤務することもあります	消防庁予防課特殊災害室企画係長 石川 裕一	14
先輩の一日 消防庁一年生事務官の一日	消防庁国民保護・防災部防災課 岩片 慧久	15

放送・情報通信・郵政行政

国と国のつながり	情報通信国際戦略局国際政策課 亀井 正志	16
情報通信の未来を見つめて	情報流通行政局情報流通振興課情報セキュリティ対策室主査 佐藤 浩行	17
ビエンベニード ア 総務省	総合通信基盤局電気通信事業部高度通信網振興課高度通信網推進官 松田 和男	18
無線通信分野の国際標準化業務	総合通信基盤局電波部移動通信課 奥井 雅博	19
母である私の仕事スタイル	電気通信紛争処理委員会事務局調査専門官 平松 由美	20
先輩の一日 ジュネーブ出張の一日	総合通信基盤局電波部電波政策課国際周波数政策室 尾崎 敦子	21

若手職員一問一答	22
----------	----

Design the Future

地方支分部局

来てくなんしょ、行政評価局に！	東北管区行政評価局第二部長 吉田 勝弘	24
「行政をよくする」行政マンを目指して	関東管区行政評価局茨城行政評価事務所総務室 松下 絢美	25
総合通信局での仕事を通して	北海道総合通信局無線通信部企画調整課 片山 静香	26
小さな職場でも、価値ある仕事	沖縄総合通信事務所情報通信課 勝畑 豪	27

先輩職員(補佐級以上の職員)インタビュー	28
----------------------	----

地方自治体・海外・出向・留学

総務省での経験を活かして市役所“経営”を	上尾市企画財政部参事 清水 啓太	30
15万市民のために	各務原市都市戦略部企画財政総室財政課長 常木 孝浩	31
Be ambitious !!	北海道総合政策部地域行政局市町村課 藤原 達展	32
外へ飛びだそう!!	石川県総務部地方課 塚原 沙也加	33
政策立案のための統計データ	京都府政策企画部調査統計課主任 大倉 一祥	34
会計検査院での経験	会計検査院第3局国土交通検査第2課調査官 原田 基紀	35
ペルーにおける地デジの普及を願って	在ペルー日本国大使館二等書記官 小林 信一	36
メキシコの真っ青な空の下から	日墨交換留学生(メキシコ国立自治大学) 日上 俊祐	37

Q & A	38
総務省の組織	40
連絡先	41
アクセス	裏表紙

総務省入省後のキャリアステップの一例

これはあくまで目安です。本人の勤務成績や希望等により変わります。

省の幹部職員へ

本省で採用となった職員

(30代後半～)
課長補佐級に
昇任

課長補佐級に昇任したら、本省で具体的な方策・計画の立案等を行っていただきます。
また、地方支分部局等に異動して、管理職として活躍していただくこともあります。

(20代後半～)
係長級に
昇任

係長級に昇任したら、本省の中堅として責任のある担当業務をこなしつつ、活躍していただきます。

入省

入省から6～10年程度の間は、本省・地方支分部局等で係員として仕事をこなしながら、業務を覚えていただきます。

地方支分部局で採用となった職員

(40代～)
課長級に
昇任

課長級に昇任したら、課室における業務執行の責任あるリーダーとして活躍していただきます。

(30代後半～)
課長補佐級に
昇任

課長補佐級に昇任したら、本省が立案した計画に対する具体的な業務実施の中核となって活躍していただきます。
また、本省に出向し、計画の立案等を行っていただくこともあります。

(20代後半～)
係長級に
昇任

係長級に昇任したら、地方支分部局の中堅として責任のある担当業務をこなしつつ、活躍していただきます。

入省

入省からしばらくの間は、本省や地方支分部局で係員として仕事をこなしながら、業務を覚えていただきます。

人事 異動

人事 異動

在外公館等への出向

世界各地の在外公館や国際機関等に出向して、外交官や国際公務員として活躍しつつ、国際的な視点から、我が国及び総務省の業務を推進していただきます。

留学制度

国内外の大学等で、専門的または国際的な知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究を行っていただきます。

他省庁や地方自治体等への出向

他の政府機関、地方自治体、独立行政法人等への出向を通じて、様々なものの見方や考え方を身につけるとともに、業務の提携・連携を深めていただきます。

世界を知り、日本に活かす



人事・恩給局労働係 併任 国際係

鈴木 友香 Suzuki Yuka

平成22年4月 総務省採用
統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室
平成24年4月 現職

ダイナミックさが魅力

人事・恩給局では、国家公務員に関する制度の企画・立案を担っています。中でも私は、国際労働機関（ILO）への対応を主に担当しています。「国家公務員とILO? どんな関係?」という疑問が湧きませんか!? 説明させて下さい。ILO加盟国は、各ILO条約の示す国際的労働基準が国内でどのように適用されているかをILOに報告する必要があります。今まで、国家公務員制度に関する事項、例えば、給与法の改正、育児休業制度の拡充、公務員制度改革などを報告してきました。

この業務にあたっては、2つのディメンション - 日本の歴史と世界からみた日本 - の理解が重要だと感じています。つまり、日本の国家公務員制度の歴史的な蓄積と、ILOなどの設定する国際的基準からみた日本の制度の評価、この2つを研究して、我が国の制度作りにかかすということです。歴史的視野と国際的視野の広がりを実感できるダイナミックさこそ、業務の魅力でしょう!

世界を感じる

人事・恩給局での貴重な体験は、国際会議に出席したことです。1つは、スイスのジュネーブで開催されたILO総会への出席です。政府・労働者・使用者の三者構成と非常に大規模で、迫力があり、各国参加者が活発に意見を交わす様子は刺激的でした。もう1つは、パリで開催されたOECDの会議に1人で(!)出席したことです。文化や経済情勢は違えど、「国を良くする」という理念は皆同じで、各国の進める挑戦と実践を生の声で聞くことができました。

働くのではなく、“よりよく”働く

人事管理を担う人事・恩給局では、効率的な働き方を各自が率先して考え、実践しているように思います。例えば、育児のために通常より短い時間で勤務を行う職員は、時間が限られる分、業務の割振や優先順位を工夫することで落ち度なく仕事をこなしています。このような諸先輩方には学ぶばかりです。

また、総務省全体の雰囲気は、幅広い業務を担っているためか、バラエティに富む人材が集まっている!と思うのは私だけでないはずです。

ICTの活用による政府の自己変革について



行政管理局行政情報システム企画課長

橋本 敏

Hashimoto Satoshi

昭和54年 4月 行政管理局採用
東北管区行政監察局
昭和61年10月 公正取引委員会事務局経済部調整課
平成18年 1月 行政管理局行政情報システム企画課
平成19年 7月 行政評価局年金記録問題検証委員会
事務局
平成20年 1月 内閣官房情報通信技術(IT)担当室
平成24年 7月 現職

電子政府の推進

国民生活や社会経済活動において、ICT（情報通信技術）の利用は不可欠なものとなっていますが、行政においても例外ではありません。今や、人・予算とともに情報システム無しでは行政の運営が成り立たなくなっています。

電子政府の推進については、ICTの活用により、便利で利用者負担の少ない行政サービスや行政運営の効率化を図ることを目的として、先進諸外国においても重点的に取り組まれています。我が国においても、ICT戦略や成長戦略などの議論の中で電子政府の推進が重要なテーマの一つとなっています。

総務省は、電子政府の推進において政府の中核的な役割を担っています。具体的な仕事としては、業務やシステムの見直しのための各府省共通のルール・指針の企画、各府省が共通利用するシステムや政府のクラウド基盤である政府共通プラットフォームの整備・運用等に取り組んでいます。

若い頃の失敗

大型電子計算機を運用する施設で働いていた係員時代のことです。残業で、夜間にコンピュータを利用していた時のこと、いざ停止させる段階になって、これまで見たこともないメッセージが画面に赤く表示されました。いろいろ悪戦苦闘しましたが、結局止めることが出来ずに翌朝まで稼働させ、当時の先輩、上司に叱られた経験があります。この失敗は一例ですが、こうした失敗、経験の積み重ねが今の自分の糧になっていると思っています。

包容力のある職場

これまで、様々な政府横断的なプロジェクトの企画、推進に携わってきました。今までの経験を通じて感じている総務省の良さは、厳しいながらも、失敗に対して包容力のある先輩・上司をはじめとして、行政管理、電気通信、地方自治等と扱う分野が広い総務省ならではの、懐が深い職場の雰囲気です。

このような職場環境で、皆さんは様々な仕事を経験できるはずです。是非、一緒に働きましょう。

お会いするのを楽しみにしています！



統計局総務課情報管理専門官
併任 調査企画課企画係長

越 有二

Koshi Yuji

平成6年4月 総理府採用
統計局統計調査部経済統計課
事業所統計室
平成13年5月 人事・恩給局管理運用係長
平成15年10月 内閣府政策統括官(沖縄政策担当)付
参事官(政策調整担当)付
平成19年4月 大臣官房総務課国会総括第一係長
平成23年4月 統計局統計調査部経済統計課
企画第一係長
平成24年10月 現職

奥深くて魅力的!?

現在の担当業務は「特命事項」となっており、一見怪しい雰囲気がありますが、もちろんそんなに怪しい仕事ではなく…。

仕事の内容は、主に統計局で実施する統計調査等について、政府全体で決めた計画に沿って行われているかフォローアップすること、また、今後、どのように行うべきかなどの提案を行うことや、それに関係する各部署の考え方をとりまとめることなどを行っています。その他、これらの業務に付随して適宜必要な業務を行ったり、関係者と関連テーマについて勉強を行ったりしています。

統計行政は、イメージするのが難しいかもしれませんが、例えば国勢調査や経済センサスのように日本全国すべての人や企業・事業所を対象とする調査は、国と都道府県・市町村が一体となって統計を作り上げるという一大プロジェクトになります。また、労働力調査などの標本調査は、統計学などの専門的知識が必要不可欠です。統計行政は奥深く大きな魅力があると思います。

幅広くて刺激的!?

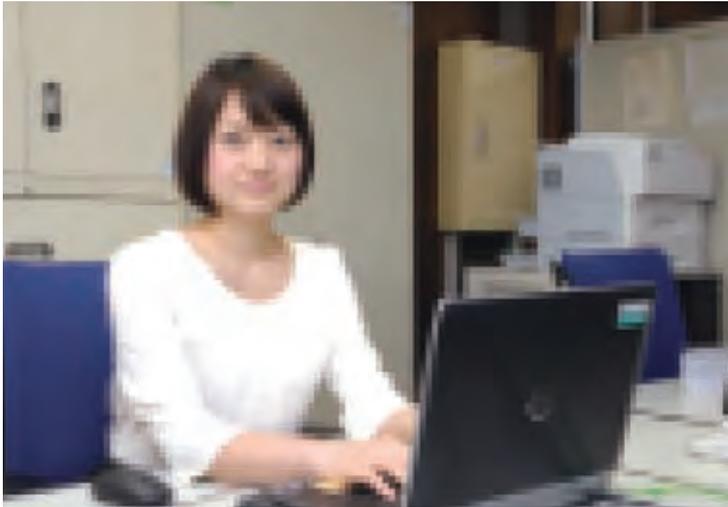
印象深い業務としては、総務省全体の国会関係の業務があげられます。国会からの要求を総務省の立場で対応する。一見単純に感じると思いますが、国会では様々な課題について審議が行われ、要求内容は総務省のみで対応可能な分野に限られません。対応も、本会議での総理大臣や総務大臣の答弁から、個別の議員の方からの資料要求まで様々。これらを整理し、総務省としての対応を短時間で決めていく作業は、非常に過酷ですが刺激的な業務でした。

フィールドは無敵大!?

総務省は幅広い業務を行っています。私も、国家公務員の人事行政や総務省全体の国会関係の業務など、他府省への出向も含めると様々な経験をさせていただきました。

仕事も幅広いのですが、仕事にたずさわる人も様々。公務員の仕事については定型的なイメージがあると思いますが、実際は多種多様です。好奇心を持って仕事をすれば、自分を生かすフィールドは無敵にあります。みなさまとお会いするのを楽しみにしています！

統計の国際協力を通して



統計局総務課国際第二係長

中川 友紀子 Nakagawa Yukiko

平成16年4月 総務省採用
独立行政法人統計センター製表部
審査課
平成18年10月 統計局統計調査部消費統計課
物価統計室
平成22年4月 内閣府経済社会総合研究所
景気統計部
平成23年4月 統計局総務課統計専門職
平成24年10月 現職

国際窓口としての仕事

統計局の国際窓口であるこの部署では、統計関係の国際会議の開催・出席のサポート、諸外国との意見交換や技術支援、海外向け広報や照会への対応などを行っています。

日本の統計は精度が高く、世界に誇れるものとの評価を受けており、統計局は国際協力にも力を入れています。諸外国への技術協力として、東南アジアなどの現地へ専門的知識を持った職員を派遣したり、国内での研修を実施したりしています。また、今後数年間、国際会議を毎年開催していく予定であり、積極的な意見交換や新たな提案を行うことにより、統計分野における国際貢献に取り組んでいます。

国際係は、国内外を問わず、人とのやりとりが多い仕事です。特に国同士のやりとりでは、細やかな配慮やフレキシブルな対応が重要となります。語学力の他にも、調整能力や統計に関する総合的な知識の必要性も痛感しているところであり、毎日が勉強です。

結婚・出産後も働きたい職場です

私は一昨年出産し、約1年半の育児休業を取得しました。育児休業中は、夫とともにロンドンで子育てをしていましたが、早く仕事がしたいという気持ちもあり、帰国の翌月には復職しました。省内には、仕事と子育ての両立をされてきた先輩方も多く、復帰することにまったく不安は感じませんでした。仕事と育児で慌ただしくも充実した毎日であり、上司・同僚のご理解をいただける温かい環境に感謝しつつ、勤務を続けています。

自らの可能性を広げ、常にスキルアップが可能な環境

子育て中だからといって、仕事が制限されるようなことはありません。現在は、10月開催予定の国際会議の担当をしており、会議場の選定や参加者のためのウェブサイト作成などを行ったところです。学生時代には学んでこなかった統計や国際的な仕事に戸惑うこともありましたが、様々な研修や周囲からの指導を受け、責任ある業務を任せられるようになりました。業務を通して自分のスキル向上や成長を実感できる、魅力的な環境です。

経済効果〇〇億円？の謎がここに



政策統括官(統計基準担当)付統計審査官付
統計審査担当主査

永井 一郎

Nagai Ichiro

平成11年4月 総務庁採用
東北管区行政監察局
平成14年6月 秋田行政評価事務所評価監視官室
平成16年4月 統計局統計基準部国際統計課
平成19年4月 大臣官房秘書課
平成21年4月 行政管理局企画調整課
平成23年4月 現職

「産業連関表」ってご存知ですか？

皆さんは新聞で「五輪招致の経済効果〇〇億円」等の記事を見たことはないでしょうか。この「経済効果〇〇億円」ってどうやって計算しているかご存知ですか。実は「産業連関表」という統計表を使って計算しています。産業連関表は、国内において1年間に行われた財・サービスの産業間取引を一つの行列形式にまとめた統計表で、我が国の経済構造を俯瞰（ふかん）できるほか、経済予測、GDP推計等にも利用されています。産業連関表は、広範な分野の膨大な統計資料を用いて作成するため、内閣府、経済産業省等の10府省庁の共同事業として実施しており、総務省はその取りまとめ役を務めています。まさに「実はここにも総務省」なのです。産業連関表の作成は、専門的な知識と膨大な業務をこなす忍耐力が必要とされますが、関係府省庁の方々や大学の先生方と、言わば「オール・ジャパン」のチームを結成して、一大プロジェクトを成し遂げる達成感は格別です。

世界に広がる統計の仕事

総務省は、統計に関する国際協力の統括機関としての役割も担っています。私は、以前、OECDやIMFが行う国際プロジェクトにおける我が国の調整役として、これらの国際機関との連絡調整を行うほか、関係する国際会議に出席して、各国統計局の方々と意見交換を行う機会がありました。元々、私は英語が得意ではありませんでしたが、省内の語学研修や上司の指導のおかげで語学力を向上させ、国際業務の醍醐味を味わうことができました。

タテにもヨコにも風通しのいい職場

総務省は、比較的風通しのいい職場ではないかと思います。タテの関係では、私がお世話になった上司の多くは、部下である私の意見にもきちんと耳を傾けてくださる方々でしたし、ヨコの関係では、若手職員同士が課室横断的に情報交換を行ったり、時には悩み事の相談をしたりしました。また、プライベートでは、職場のテニスサークルに所属し、週末の昼はテニスで汗をかき、夜は冷えたビールで喉を潤して、ストレスを解消しています。

こんなお仕事をしています！

行政評価局評価監視官付 佐藤 友佳

8:00

8:30 『朝一番』

私の所属する行政評価局では、行政機関の組織やその活動を調査して必要な改善を求める行政評価業務を行っています。朝一番に新聞各紙に目を通し、行政の抱える問題や課題について、様々な視点から情報を収集します。



9:00

10:00 『調査準備』

行政が抱える課題を深く理解するため、総務省図書館で過去の文献等をリサーチ。様々な分野の関連施策や制度を勉強できるので飽きません。



11:00

12:00 『ランチタイム』

本日のランチタイムは、銀座まで足を伸ばして、以前一緒に働いていた先輩とスペイン料理を堪能いたします♪おいしいご飯と楽しいおしゃべりで充電完了です。



13:00

13:30 『調査へ!』

チームでいざ調査へ出発! 関係機関に実際に足を運び、事前に収集・分析した資料をもとにヒアリングを行います。課題、問題について相手機関はどのように考えているのか? 緊張しますが、やりがいは十分!



14:00

17:00 『打ち合わせ』

今日の調査で分かったことや自分の担当項目の進捗状況について報告をします。他のチームの情報も共有しながら、改善の方策について議論します。



18:00

オフタイム 『お誕生日会』

私の所属する課室では、お誕生月の方達をケーキでお祝いしています! 今月は私もお祝いしていただきました。仕事はビシッとこなしながら、遊び心もある上司の方々なのです。



ひとことメッセージ

どんな職場なんだろう? 不安と同じくらいの期待を抱えて総務省に入省してから、もう2年が過ぎました。行政評価の右も左も分からない私が思うままに発信した考えを「若い柔軟な発想が大事」と言って受け止めて下さる上司の方々や、「いつでも何でも聞いて」と言ってサポートして下さる先輩達に恵まれて、のびのびと仕事をさせてもらっています。「評価」をするにはひとつの事柄を様々な角度から分析・考察する必要がありますが、その際にはたくさんの人が知恵や、経験や、発想を持ち寄ることが必須になります。よりよい行政を目指して、総務省というフィールドでのびのびお仕事、してみませんか?

PROFILE

佐藤 友佳 Sato Yuka

平成23年4月 総務省採用
現職

人事・恩給局

行政管理局

統計局

行政評価局

「市町村」について考えてみよう



自治行政局市町村課体制整備第一係長
併任 体制整備第二係長 併任 合併支援係長

伊良部 直

Irabu Sunao

平成15年4月 総務省採用
自治大学校庶務課
平成16年4月 自治行政局公務員部福利課
安全厚生推進室
平成17年4月 富山県知事政策室
平成18年4月 富山県経営管理部市町村支援課
平成19年4月 消防庁総務課
平成21年4月 自治財政局地方債課資金係長
平成22年4月 自治財政局公営企業課
地域企業経営企画室地域開発事業係長
平成24年4月 現職

肌で感じる、地方自治のこれから

今私が所属している市町村課は、最も身近な行政主体である市町村の役割やあり方そのものに関わる制度を所管しています。

その中で私が担当している業務の一つに市町村合併があります。前世紀の終わりから今世紀の初めにかけて総務省が推進した平成の合併により、市町村の数はおよそ半分に減りました。故郷の名前が変わり寂しい思いをした方も多いと思いますが、これも地方分権を進めるため、市町村のあり方そのものを市町村、都道府県、そして国が真剣に考え直した一大施策です。

そして今、東日本大震災を契機に、総理大臣の諮問機関である地方制度調査会において、今後市町村の担うべき役割やあり方について議論が行われています。高齢化が進み人口が減っていく社会の中で市町村はどうあるべきか？平成の合併が一段落した今、どのような施策の展開が考えられるのか？日本の将来を考えるスケールの大きな議論に参画できることに、強いやりがいを感じています。

印象に残っている仕事

自治財政局地方債課に所属していた際、高金利の地方債の利払いに苦しむ自治体を支援する施策（補償金免除繰上償還）の企画立案に携わりました。地方債は借金とはいえ、長引く不況で税収増が見込めない自治体にとっては貴重な財源です。膨大なデータや過去の資料を検証しながら、財務省をはじめとした関係省庁と繰り返し折衝した結果、1兆円を超える自治体の財政負担軽減の実現に貢献できたことは、非常に印象に残っています。

総務省だから経験できること

総務省の魅力は、なんといっても国と地方の双方の立場で仕事ができることです。私も2年間富山県庁でお世話になりましたが、日々県や市町村の職員の方々と仕事をする中で、国の施策が地方でどう消化され運用されていくのか、また地方の実状がどのような道筋を辿って様々な施策に還元されていくのかを肌で感じることができました。霞が関にいただけでは味わえないリアルな地方自治の現場を、総務省ではきっと体験できると思います。

総務省の多彩な魅力



自治行政局公務員部公務員課
給与能率推進室給与第一係長

藤巻 詩子

Fujimaki Utako

平成12年10月 自治省採用
行政局公務員部給与課
平成13年 1 月 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室
平成14年 4 月 沖縄県企画開発部地域・離島振興局市町村課
平成15年 4 月 沖縄県企画開発部地域・離島振興局地域・離島課
平成16年 4 月 大臣官房政策評価広報課
平成18年 4 月 自治行政局選挙部政治資金課管理係長
平成20年 4 月 自治大学校庶務課会計係長
平成23年 4 月 大臣官房秘書課機構・定員第二係長
7 月 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室
給与第二係長
平成24年 4 月 現職

日々の業務

私は地方公務員の給与に関する業務を行っています。具体的には、各地方公共団体に対して、給与改定等の状況に関する調査、通知やヒアリング等の機会を通じた不適正な給与制度・運用の見直しに関する助言、住民等が地方公共団体間の給与の比較分析を十分行えるよう公表様式に沿った情報開示の徹底やよりわかりやすい情報提供のための積極的な工夫についての助言などを行っています。

また、東日本大震災を契機として防災・減災事業に積極的に取り組むとともに、長引く景気の低迷を受け、一層の地域経済の活性化を図ることが喫緊の課題となっており、こうした地域の課題に迅速かつ的確に対応するため、平成 25 年度の地方公務員の給与については、国家公務員の給与減額支給措置を踏まえ、各地方公共団体において速やかに国に準じて必要な措置を講じていただくようお願いしているところです。

地方赴任の経験は財産

同じ時間を共有し、苦楽を分かち合うことで「同じ釜の飯を食う」といった間柄になるのではないかと思います。私は入省 1 年半後に沖縄県に赴任し、県庁の方々や祭りや行事の楽しい時も、仕事を頑張らなければいけない時も、本当に多くの時間を共有することができました。その時の絆は私の財産となっています。

また、県内のほとんどの市町村を回って、役場の人と話し、その土地の風土や文化に触れることができたことも、地方での豊かな経験の一つです。

刺激の多い職場

現在、日本全国の地方公共団体の職員の方々と席を並べて仕事をしています。「〇〇県ではこうしています」とか「〇〇市ではこうしたいと考えている」といったように、霞が関にいながら地方の実情を知ることができ、刺激を受けることも多いです。

総務省には、霞が関にも、地方にも、豊かな経験ができる職場があります。きっと皆さんの興味がわく仕事に巡り会えるのではないのでしょうか。

地方負担の調整という仕事



自治財政局調整課企画係長

西崎 吏

Nishizaki Tsukasa

平成16年 4月 総務省採用
消防庁総務課
平成17年 4月 自治税務局固定資産税課
平成17年10月 長崎県地域振興部地域政策課
平成18年 4月 長崎県地域振興部市町振興課
平成19年10月 自治行政局選挙部管理課
平成22年 4月 自治行政局選挙部管理課
選挙啓発係長
平成23年 4月 現職

調整課の業務

国（各省庁）が法律や予算に基づいて新たな事業を実施する場合、地方団体に対して一定の事務負担を求められることがあります。地方団体にはその事務を行うための新たな財政負担が生じることになります。自治財政局調整課では国と地方の役割分担の観点から、そもそも地方団体が財政負担すべきものなのか、仮に、負担することが適当であったとしてもその負担割合が適切かどうかということを検討し、地方団体が一定の役割を担うことが合理的であると判断されれば、その財政負担を軽減するための調整を行います。

調整課では、それぞれの職員が各省庁の担当になっており、複数の省庁を一人で担当している職員もいます。例えば、同じ職員が、琵琶湖の環境問題の話をしていたかと思えば、ストーカー対策の話もしています。このように、担当する省庁の制度・施策について広く勉強し、詳しくなることが求められる職場でもあります。

ローカル鉄道支援

そんな調整課での印象に残る仕事は、ローカル鉄道支援のための施策を検討することでした。現状を把握すべく全国調査を行ったところ、その大半は厳しい経営状況にあり、地方団体が事業者に対し補助を行って何とか路線を維持していることがわかりました。マイカーを利用できない住民の足の確保は地域の重要な政策課題です。そのような地方団体の財政負担を少しでも軽減するため、新たな財政措置に関する制度設計に携わったことです。

最後に

総務省の大きな魅力は、若いうちから国や地方で多くの職場を経験できることだと思います。就職活動をされている皆さんの中で、このパンフレットを手にとって地方を少しでも良くしたいと思った方は、是非、総務省の門を叩いてみてください。色々な経験をしている職員から皆さんの興味や関心に応える魅力的な話がきっと聞けるはずです。

いつかまた笑える日まで



自治税務局市町村税課住民税第二係長
併任 調査係長

榎戸 芳文

Enokido Yoshifumi

平成14年 4月 総務省採用
自治税務局固定資産税課資産評価室
平成15年10月 高知県文化環境部文化推進課
平成16年 4月 高知県企画振興部市町村合併支援室
平成17年 4月 公営企業金融公庫融資部融資第一課
平成19年 4月 自治財政局交付税課
平成20年 4月 大臣官房企画課企画調査第三係長
平成22年 4月 自治財政局公営企業課公営企業経営企画室
水道・工業用水道事業係長
平成24年 4月 現職

税制改正と地方税

私は現在、市町村税課に所属しています。日本の税制は国税と地方税に大別でき、さらに地方税は都道府県税と市町村税とに分かれます。地方税は都道府県や市町村が課税主体となりますが、私の職場では市町村税の制度設計・企画立案を主な業務としています。日本の税制は、毎年、年度後半に次年度税制改正の議論が行われます。税制は国民の大きな関心事項であり、特に平成 25 年度税制改正では、消費税増税に伴う税制のあり方も議論されたことから、テレビや新聞でも大きく報じられました。私は 25 年度税制改正の中で住宅ローン減税を担当しました。単に減税と言っても地方団体の税収が減ることは地方財政の視点では大きな問題となります。だからこそそのような制度とするか税制調査会で議論が行われました。こうしたプロセスを間近に見ながら、日本全国に関わる制度の一翼に微力ながら携われたことに大きなやりがいを感じました。

仕事の進め方

国の仕事は決して国の職員だけで行っているものではありません。総務省の仕事、特に地方自治に関わる部局の仕事は都道府県や市町村に密接に関係するからこそ、職場には全国各地から地方団体の職員が総務省に来られ一緒に仕事をしています。私の職場でも市町村で課税事務に携わり、税分野を熟知している方々と共に仕事をしています。税の専門用語 (!?) が飛び交う職場で、実務面の現状など相談ができる、とても頼もしい存在です。

共に仕事をした仲間達と

繰り返しになりますが、地方自治に関わる部局では多くの地方団体の職員の方々と出会います。いずれ人事異動とともに離れ離れになりますが、交流が途絶えることはありません。

またどこかで出会い「あの時はああだったね」「そういやそんな事もあったね」と一緒に大笑いしながら話せる日が必ずやって来ます。入省して早 10 年以上が過ぎましたがその繰り返しだと強く感じます。皆様、素敵な出会いができる総務省で一緒に仕事をしてみませんか。

消防庁で勤務することもあります



消防庁予防課特殊災害室企画係長

石川 裕一

Ishikawa Yuichi

平成15年 4月 総務省採用

消防庁総務課

平成16年 4月 自治行政局地域振興課

平成16年10月 宮崎県地域生活部市町村課

平成18年 4月 公営企業金融公庫総務部企画課

平成22年 4月 国土交通省都市・地域整備局地域振興課
交流推進係長

平成23年 4月 現職

幅広い総務省の業務

総務省で採用されて消防庁に配属されることもあるって知っていましたか？消防庁といっても、もちろん現場に火を消しに行くわけではなく、主に消防に係る制度や法律の整備等を行っています。ただし、例えば震度6以上の地震があると、夜間・休日でも全職員が参集し災害対応に当たる必要があるなど、常に多少の緊張感を持った心構えが必要となります。

私は現在、石油コンビナートに係る政令の改正や、林野火災、交通機関の災害等を担当しています。笹子トンネル崩落事故の際は被害報の作成やマスコミからの問い合わせへの対応等を行いましたが、こうした社会的な影響も大きい事故に対応することは大変貴重な経験となりました。

地方行財政から消防まで、幅広く地域社会を支える重要な業務に携わることができるのが総務省の魅力です。漠然とでも構わないので、日本を元気にするような仕事がしてみたいという方は、是非私たちの仲間となり力を貸してください。

国家レベルでの災害対応

私は東日本大震災の約半月後から消防庁に配属となりましたが、その頃はまだ余震や原発事故対応が続いており予断を許さない状況でした。私は、関係省庁が集まる総理官邸の危機管理センターにおいて、総理官邸と消防庁との連絡調整等を主に行いましたが、未曾有の大災害に対するオペレーションの一端を担ったことは、日々緊張と責任を強く感じましたが、こうした緊張感の伴う任務を担ったことは自分自身の成長にもつながりました。

地方で得た知識・経験を国で発揮

地方自治体に出向できることは総務省の大きな魅力の一つです。私は宮崎県庁に赴任しましたが、この期間に、仕事の内容はもちろん、地方自治の現場での物の見方や考え方、地方が抱えている課題に加え、宮崎や九州の観光スポットから芋焼酎の飲み方まで様々なことを学び吸収することができました。地方での生活は初めてのことが多く大変な面もありますが、総務省に戻ってきてからも活かせる様々な経験値を積むことができる場となります。

8:00

8:30 『 今日も元気に出勤！ 』

おはようございます！出勤したらずぐに、机ふぎとゴミ出しを行います。職場の皆さんに気持ちよく働いてもらうための環境作りも、新人の立派な仕事です。



9:00

9:30 『 Twitterで情報発信 』

Twitter専用パソコンを使って、地域防災に関する話題を発信します。四十万人を超えるフォロワーに向かってつぶやきを投稿する瞬間は緊張します。



10:00

10:00 『 資料作成 』

入省一年目の事務官にも主担当業務があります。災害ボランティアに関する会議の開催録を作成しています。開催内容の検討から主担当として取り組んだ仕事のまとめ作業だけに力が入ります。



12:00

12:00 『 ランチ 』

ランチは総務省内の食堂へ。どの省庁にも食堂がたくさんあるので、お気に入りのお店を見つけるため、食べ歩きの日です。おいしいランチを食べて、午後の業務に備えます。



13:30

13:30 『 図上訓練 』

本日の午後は図上訓練です。活動服に着替えて、消防庁危機管理センターに参集し、訓練開始。自治体から被害の発生状況などを聞き取り、情報を集約するのが私の仕事です。



19:00

19:00 『 訓練お疲れ様でした！ 』

今夜は職場の皆さんと飲みに行きました。たくさん食べて、たくさん話して、一日の疲れを吹き飛ばします。リフレッシュして明日も一日元気に頑張ります！

**ひとことメッセージ**

私は、国家公務員として地方自治の仕事に携わることができるという点に魅力を感じて、総務省への入省を希望しました。現在は、消防庁で地域防災に関する仕事をしています。消防庁では、デスクワークのほか、災害対応業務や図上訓練などの様々な仕事があり、充実した日々を送っています。地方自治に興味がある方は、是非一度総務省にいらして下さい。お待ちしております！

PROFILE

岩片 慧久 Iwakata Akihisa

平成24年4月 総務省採用
現職

国と国のつながり



情報通信国際戦略局国際政策課

亀井 正志 Kamei Masashi

平成22年10月 総務省採用
情報通信国際戦略局技術政策課
平成24年 4月 現職

『国際関係の業務』

私が所属している国際政策課は、情報通信技術分野における日本の国際競争力の強化にむけて、サイバー空間に関する国際的なルール作りや、国際電気通信連合（ITU）への貢献、欧州・北米を対象とした政策協調の取組や海外動向調査等を行っています。

そのなかで私は欧州関係の業務を担当しており、欧州連合及び欧州連合加盟国政府と総務省との間で情報通信政策に関する協議を開催したり、欧州各国の政策動向について現地の大使館の協力を受けながら情報を収集し、省内へ情報提供をしています。

また、日本の情報通信政策に関心を持つ欧州連合及び加盟国の政府・企業関係者から総務省への訪問希望を受けることがしばしばあるため、当該訪問対応を行っております（閣僚レベルの表敬訪問から実務家レベルの専門的な意見交換まで様々です）。総じて、日本と欧州を繋ぐ業務を行っております。

『印象的な先達の姿』

国際政策課に配属後一週間も経たない頃に、早速国際会議に出席させていただく機会がありました。印象に残ったのはその休憩時間。会議に出席していた欧州側関係者に、情報通信政策について尋ねられたのです。周辺でも、そこかしこで名刺交換をしながら出席者同士が熱心に意見交換をしていました。他国の政府・民間関係者と積極的に交流して関係を築き、双方の政策に役立てようとする先達の姿は、今でも私の業務における手本です。

『省内の雰囲気』

総務省には、健康第一で気遣ってくれる上司、困った時に気軽に相談できる雰囲気、そして勤勉な同僚など、職務に邁進できる環境が揃っています。職員がより良い成果を生み出すための、一種のシステムのようなものとして整備されているのだと感じます。機会があればぜひ業務説明会等に参加して、肌で感じて頂ければ幸いです。きっと、総務省を目指す皆さんの背中を後押ししてくれると思います。

情報通信の未来を見つめて



情報流通行政局情報流通振興課
情報セキュリティ対策室主査

佐藤 浩行

Sato Hiroyuki

平成17年10月 総務省採用
大臣官房秘書課
平成19年7月 情報通信政策局総合政策課
併任 通信・放送法制企画室
平成20年7月 情報通信国際戦略局情報通信政策課
平成21年7月 情報通信国際戦略局参事官
(通信・放送総合戦略担当)付
平成22年7月 情報流通行政局放送政策課
併任 情報通信国際戦略局情報通信政策課
併任 情報通信国際戦略局参事官
(通信・放送総合戦略担当)付
平成23年7月 情報流通行政局地上放送課
併任 情報流通行政局放送政策課
平成23年10月 情報流通行政局情報通信利用促進課主査心得
平成24年8月 現職

ビッグデータ時代の情報通信政策

今、情報通信の分野では、SNS など個人が簡単に情報発信できるインターネットサービスが急速に普及・発達しており、例えば携帯電話の位置情報といったライフログなど多種多様な大量の情報、いわゆるビッグデータがインターネット上で流通する時代を迎えています。これによって、新ビジネスの創出、利便性の向上などが期待されている一方、利用者からは自分の情報についてプライバシーがきちんと守られているのかが不安を感じることもあるといった課題も生じています。

私の所属する情報セキュリティ対策室では、このようなビッグデータ時代において、安心・安全な ICT サービスの利用環境を確保しつつ、経済活性化や産業競争力の強化を推し進めることを目指しており、それに向けた取組みとして、インターネット上での個人情報の取扱いに関するルール作りの検討・企画を行っています。

これまでで印象に残った業務

以前、放送政策の企画・立案を担当する部署に所属していたとき、放送のデジタル化や映像・音声サービスの高度化を背景として、通信・放送の制度を60年ぶりに大再編するというミッションに携わることができました。たくさんの法律の条文を改正する作業は大変なものでしたが、テレビやラジオ、インターネット放送などのサービスについて、将来の普及・発展の一助となる制度の見直しができることは、非常に印象に残った仕事です。

私の考える総務省の魅力

情報通信技術の進歩は非常に早く、“ドッグイヤー”ともよく言われます。また、その技術の進歩は、経済社会の活性化や国民生活の利便性向上に関して、大きな影響力を持っていると言えます。そのような情報通信の分野において、私がこれまで担当した業務も、どれも時代の変化に応じた又は将来のニーズを見据えた事業環境整備などであり、総務省の仕事は、将来への可能性、そして責任を感じられるという魅力があると思います。

ビエンベニード ア 総務省



総合通信基盤局電気通信事業部
高度通信網振興課高度通信網推進官

松田 和男

Matsuta Kazuo

昭和62年 4月 郵政省採用
大臣官房人事部要員訓練課
昭和62年 8月 電気通信局電気通信事業部監理課
平成 元年 5月 電気通信局電気通信事業部事業政策課
平成 3年 6月 大臣官房人事部能力開発課
平成 4年 4月 人事院事務官併任(行政官国内研究員 東京大学大学院)
平成 6年 7月 経済企画庁経済研究所国民所得部国民生産課専門調査員
平成 9年 7月 大臣官房企画課企画調査室主査
平成10年 6月 大臣官房企画課国際部国際政策課企画室主査
平成11年 5月 外務省在ペルー日本国大使館二等書記官
平成14年 8月 総務省大臣官房政策評価広報課広報室報道係長
平成16年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐
平成17年 8月 福岡県総務企画局情報課推進室情報企画課長
平成19年 7月 郵政行政局貯金企画課課長補佐
平成19年10月 郵政行政局貯金保険課課長補佐
平成21年 7月 情報流通行政局郵政行政部貯金保険課課長補佐
平成22年 7月 情報流通行政局郵政行政部企画課課長補佐
平成23年 7月 現職

夢想癖

高度通信網推進官というのが現在の私の役職名です。一体何をやる役職なのかというと、FTTH(ファイバ・トゥ・ザ・ホーム)と呼ばれる超高速通信サービスを全国にあまねく整備していくというのが主な任務です。超高速通信サービスを整備すると何が出来るようになるかというと、例えば、医師がいないような離島の患者を、テレビ電話を通じて診察したり、山奥に住みながら東京の本社のデータにアクセスして仕事をしたりと、本来なら移動を伴うようなことを移動せずに出来るようになります。まさに過疎地域にとっては、起死回生のツールなのですが、実際にサービス基盤を整備して、利用してもらおうとなると…。将来はこうなるといいなと思うような夢の世界を、一年でも二年でも前倒しすべく日々努力しています。

ライオンの子育て

入省したての頃ですが、電話を用いた今の出会い系サイトのようなサービス(ツーショットダイヤル)が社会問題化したことがあって、当時係員でしかなかった自分に、現状分析から対応方針の策定まですべて任せてもらえ、一定の成果を出せたことがその後の大きな自信につながったと思います。

七変化

ある時はエコノミスト、ある時は外交官、またある時は市役所の職員、果たしてその実体は、単なる総務省の職員。総務省内だけでも通信以外にも、金融や統計など多様な業務がありますが、それ以外にも他省庁や自治体への出向機会もあり、いろいろな経験が出来るのが総務省の魅力では(もちろん〇〇オタクになることも可)。

無線通信分野の国際標準化業務



総合通信基盤局電波部移動通信課

奥井 雅博 Okui Masahiro

平成21年10月 総務省採用
情報通信国際戦略局技術政策課
研究推進室

平成23年7月 現職

周波数獲得のための国際交渉

携帯電話等の周波数の割当てや無線通信方式の標準を検討する ITU-R（国際電気通信連合無線通信部門）に関する業務を行っています。日本ではスマートフォンの普及などが原因で移動通信トラフィックが急増しており、周波数のひっ迫を防ぐため、さらにはより高速かつ安定して通信を行うため、携帯電話へ周波数を多く割り当てる必要があります。しかし使用周波数帯が各国でばらばらだといくつかの問題が生じます。例えば、日本が携帯電話に使用したい帯域が、ある国では他の業務（衛星通信など）で利用されていた場合、その帯域を世界共通で利用することは難しくなります。そのため、日本で使われている携帯電話が他国でも利用できるようにするためには、周波数は可能な限り世界共通にすべきと考えられています。このため、各国の周波数利用状況や社会状況、事業者の意向などを考慮した上で日本として何を主張すべきか検討し、ITU-R の会合において各国と議論を行っています。

白熱する議論

私がこれまで経験した最も印象深い業務は国際会議に参加し、各国の関係者と議論を行ったことです。私に関わっている ITU-R の会合では国益や企業の利益に結びつく交渉が行われるため、各国とも主張を激しくぶつけ合い、議論が白熱することもよくあります。全会一致が原則のため、1つの文書を作成するため膨大な時間を費やすなど、非効率と考えられることも起こり、いい意味でも悪い意味でも驚きました。

難易度高く、達成感も大きい

総務省で働く魅力は日本代表として国際会合に出席するなど世界を舞台に働けるチャンスがあることだと思います。総務省が担当している情報通信や無線通信の分野は専門性が高く、プロフェッショナル指向の方には働きがいのある仕事だと思います。各国の政府関係者、専門家との議論は難易度も高いですが、得られるものも大きいため、国際標準の専門化を目指すというのも面白いのではないのでしょうか。

母である私の仕事スタイル



電気通信紛争処理委員会事務局調査専門官

平松 由美

Hiramatsu Yumi

平成11年4月 郵政省採用
大臣官房人事部人材開発課
平成11年7月 電気通信局総務課
平成11年7月 電気通信局電波部計画課
平成13年1月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課
平成13年7月 情報通信政策局衛星放送課
平成15年8月 情報通信政策局地上放送課
平成16年7月 文部科学省研究開発局宇宙政策課調査国際室
平成17年4月 文部科学省研究開発局参事官付
平成17年7月 文部科学省研究開発局参事官付国際第2係長
平成18年8月 情報通信政策局情報通信利用促進課政策係長
平成20年7月 情報流通行政局情報通信利用促進課政策係長
平成21年7月 情報流通行政局郵政行政部信書便事業課信書便第二係長
平成22年7月 情報流通行政局総務課主査
平成24年4月 現職

周囲のサポートに感謝しています

私は平成22年9月に第1子を出産、育児休暇を1年半取得して平成24年4月に復職、電気通信紛争処理委員会事務局に配属になり、現在は電気通信紛争処理委員会の会議運営に関する手続き全般や、電気通信紛争処理委員会の活動を取りまとめた年次報告の作成を担当しています。

復職当初は子供が保育園で次々と新しい病気をもらい発熱という日々で、保育園からの呼び出しですぐにお迎えに行かなければならなかったり、熱が下がらず何日か連続でお休みをいただいたりと、職場の方々には非常に迷惑をかけてしまいました。

復職して1年たち、子供は2歳になりました。保育園のおかげで元気にたくましく成長してくれて、子供の病気でお休みを取るとは減多にないですし、定時まで働ける日も増えてきました。今の育児と仕事が両立した生活スタイルを確立できたのは、職場の方々の理解と協力があってこそだと思っています。この環境に心から感謝をしています。

印象どおりでした

郵政省（当時）を選んだ理由は、他省庁と比べて人がよさそうな感じがしたからです。妊娠中は具合の悪い日が多く、業務を軽減してもらって周りの方々にはかなり迷惑をかけてしまいました。復職したら、今度は育児で以前のように働けず…。こんな状態ですが、いつも職場の皆さんには温かく見守っていただいています。入省前に感じた人のよさはやっぱりその通りでした。

職場での経験は貴重な財産です

妊娠・出産前は他省庁への出向や海外出張をはじめとして、たくさんの貴重な経験をさせていただき、様々な分野の人たちと知り合うチャンスに恵まれました。このような経験ができたのも幅広い業務を担っている総務省だからこそですね。

出産後は、育児中ということで自分のペースで仕事ができる部署に配属させてもらっています。総務省は育児に理解のある、女性にとって働きやすい職場だと思います。

ジュネーブ出張の一日

8:00

8:30 『WRS-12』

スイスのジュネーブに本部がある、国際電気通信連合 (ITU) で開催されるITU World Radiocommunication Seminar 2012 (WRS-12) に出席するため、1人で出張です。



9:00

9:00 『オープニング』

WRS-12は、世界各国の国際周波数調整担当者を対象としたセミナーで、ITUに加盟する100以上の国と地域から、約400名が参加し、解説言語は、英語と仏語から選択可能です。



9:30 『プレナリー・セッション』

ITUの無線通信局長による挨拶後、早速、無線通信規則(RR)の概要について、解説を受けます。さらに、2012年世界無線通信会議(WRC-12)での改正点やWRC-15の議題についても、紹介がありました。



10:00

13:00

13:00 『ランチ』

この機に同時開催されている無線通信機器等の展示を見学してから、ランチです。束の間の休息です。



14:00

14:00 『ワークショップ』

午後は、衛星系と地上系に分かれて、ワークショップの開始です。私は、衛星系のワークショップに参加しました。ITUから提供される、衛星の周波数調整に必要なソフトの利用方法について研修を受けました。



21:00

21:00 『ディナー』

本日のワークショップを終えて、他の参加者達と夕食を楽しみながら、明日への英気を養います。スイスということで、アルプホルンやアコーディオンによる演奏を楽しみました。



ひとことメッセージ

私は、就職活動前、国際関係は、外務省の担当だというイメージを持っていました。しかし、総務省説明会で、多くの総務省職員が国内外での国際会議・国際交渉を担当していると聞き、実際私もそれに携わる立場になりました。入省以来、国際政策課では欧州との情報通信分野に関する国際交渉を、国際周波数政策室では、他国と電波が干渉しないようにする国際調整を担当しています。あなたも、総務省で、世界と交渉してみませんか。

PROFILE

尾崎 敦子

Osaki Atsuko

平成21年10月

総務省採用

平成24年5月

情報通信国際戦略局

国際政策課

現職



● 名前：羽間 朗 Hazama Akira
平成 23 年度入省
● 所属：大臣官房会計課

総務省を志望した理由

業務説明会などで、総務省が私たちの生活に密着した行政を担っている機関であることを知りとても身近に感じたのと、説明していただいた総務省職員の方々の熱意に惹かれて志望しました。

実際に働いた印象

私は今、会計課で予算編成業務を担当していますが、新聞に載っている記事の一部を実際に肌で感じながら仕事ができる職場でとてもやりがいを感じます。

今後どのような能力をつけていきたいか

「カウンターパートが何を考え、どのようなことを求めているのか」を、対話をしていく中できちんとくみ取り、それをもとに業務を正確にこなしていく能力です。

総務省を志望した理由

国の行政機関の中でも、総務省の業務は、統計調査や行政相談といった人々の日常生活に携わっているものがたくさんあり、多くの人にとって身近な業務であることに魅力を感じ、志望しました。

アフターファイブ・休日の過ごし方

平日は仕事から帰ると家でゆっくり過ごすことが多いですが、休日は茶道などの習い事を通ったり買い物に行ったりと活発に活動しています。

今後どのような能力をつけていきたいか

上司や先輩の仕事ぶりを見てみると、思いもかけないところに気が付くなど非常に視野が広いことに驚きます。私も物事を多角的に見渡せるよう、アンテナを高く張って仕事に取り組める職員になることが目標です。



● 名前：阿部 千晶 Abe Chiaki
平成 24 年度入省
● 所属：行政評価局総務課
政策評価審議室



● 名前：小澤 亜紀 Kozawa Aki
平成 22 年度入省
● 所属：情報通信国際戦略局
情報通信政策課

総務省を志望した理由

学生時代にインターネットに関係した研究を行っており、特に利活用に興味を持っていました。また、総務省は情報通信のほか、自治や行政評価、統計等幅広い分野を所管しており、日本の国政に広い範囲で関わることが出来ることも魅力的であったため、総務省を志望しました。

今後どのような能力をつけていきたいか

現在の部署では時折英語の資料を読んだりするため、語学力を向上させたいと思っています。また、英語に限らず、業務に関して齟齬のないコミュニケーションがとれるよう、伝える力もつけていきたいです。

今後やりたい仕事

今までは、情報通信の振興に関する業務を行ってきましたので、今後は総務省で所管している法律の適正な執行に関する業務を行ってみたいと思っています。

総務省を志望した理由

総務省の幅広い業務に惹かれ…など志望理由はいくつもありますが、官庁訪問の際、総務省で働く皆さんの温かさに触れ、ここで皆さんと一緒に働きたい!と思えたことが1番の決め手でした。

実際に働いた印象

上司や先輩方に「見守られている」という感覚です。迷ったときはいつでも相談でき、困ったときにはさりげなくフォローしていただける環境で仕事ができていることを幸せに感じています。

学生へのメッセージ

総務省の業務は幅広く、各局にカラーがあります。ぜひ1度総務省に足を運んでいただき、総務省の雰囲気に触れてください。素敵なお上司、先輩に出会えると思います!



● 名前：廣田 恵美 Hirota Megumi
平成 24 年度入省
● 所属：統計局統計調査部
消費統計課審査発表係



● 名前：清水 慶子 Shimizu Keiko
平成 23 年度入省
● 所属：自治行政局公務員部
給与能率推進室

総務省を志望した理由

過疎地域である地元の将来に不安を覚え、地方自治の分野に携わりたいと考えました。地方での仕事も魅力的でしたが、総務省は地方勤務の機会もあるので、国と地方の両視点を持って仕事ができる総務省を志望しました。

アフターファイブ・休日の過ごし方

平日は、職場の先輩・学生時代の友人と飲みに行ったり、新宿や銀座で買い物をしたりします。休日は、最近ハマっているクロスバイクで都内をめぐりながら、趣味の写真の撮ったり、美味しいものを食べたりしています。

今後やりたい仕事

過疎対策です。財政面や人材面など、様々な角度から過疎地域が抱えている問題に向き合い、地域活性化のお手伝いできれば良いなと思っています。



● 名前：末金 拓真 Suekane Takuma
平成 24 年度入省
● 所属：消防庁消防・救急課

総務省を志望した理由

私は最初地方公務員を志望しておりましたが、総務省では国家公務員としてだけではなく、都道府県など地方の立場でも仕事ができることを業務説明会等で知りました。この点に魅力を感じ総務省を志望しました。

学生へのメッセージ

自分がやりたいことなどが決まっていない方も多いと思いますが、地方自治制度等についていろいろ勉強になりますので、業務説明会などに是非足を運んで頂ければと思います。

今後やりたい仕事

この1年間を通じ、地方団体にとって財源を確保することがどれだけ重要か実感しました。地方団体が円滑に自治体行政を行っていくことができるように、地方財政の仕事に携わることができればと思います。

来てくなんしょ、行政評価局に！



東北管区行政評価局第二部長

吉田 勝弘 Yoshida Katsuhiko

昭和54年4月 行政管理庁採用
九州管区行政監察局
昭和63年4月 行政監察局行政相談課
平成5年7月 会計検査院第3局運輸検査課
平成9年4月 行政管理局企画調整課行政手続室
平成15年7月 統計局統計調査部
平成17年8月 政策統括官(統計基準担当)室
平成23年7月 現職

どんな仕事なの？

「さて、どの役所に行こうか。」今、いろいろな府省庁のパンフレットを手にされているあなた、そう、あなたです。是非、総務省に来てくなんしょ。そして、各府省庁の施策を真に国民のために役立つものにする仕事を行政評価局でやりましょう。私は、東北管区行政評価局という行政評価局の出先機関で「行政評価・監視」という仕事をしています。どんな仕事かという、各府省庁が実施しているいろいろな政策・施策について、「それって本当に必要な?」、「有効なの?」、「効率的にやってる?」、「無駄じゃない?」などといった観点から、行政評価局が作成した計画に基づき、私が勤務する東北管区行政評価局をはじめ全国8か所にある管区行政評価局と各県ごとにある行政評価事務所が調査を行い、その結果に基づき問題点とその改善方策を関係府省庁に勧告して、国民のために真に必要な施策を実現していくというものです。行政のお目付役ともいえます。正義感あふれるあなた、やりがいがありますよ。

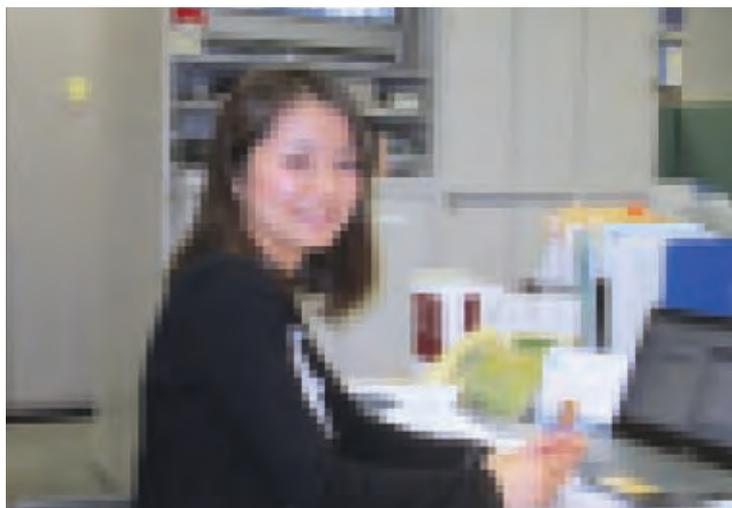
出先機関でも独自性を発揮した仕事ができます。

管区行政評価局は、本省が計画した調査を実施し、結果を報告するというのが基本ですが、管区行政評価局が、その管内の行政上の問題を解決するために、独自に作成した計画で調査を行い、現地的な改善を図るという仕事も行っています。その一例として、東北百名山を中心に登山道を調査したところ、国土地理院の地形図に表示されている登山道と現況とが異なっている状況がみられたので、国土地理院（東北測量部）に対して、地形図を早急に修正するとともに、計画的な修正を行うよう改善を求めた例があります。

職場の雰囲気、堅くないですか？

私がこの職場に入ったのは、もう随分昔のことですが、24年振りに管区行政評価局での仕事をしてみて、職場の雰囲気はほとんど変わらないですね。1年生、2年生でも、自分が担当している項目はもちろん、10年先輩が担当した項目でも、国民のニーズに応えた本来あるべき姿はどうか、という視点で侃々諤々の議論を行う、それができるフランクな職場です。行政評価局は、調査をして、問題点・課題をあぶり出し、改善方策を提示するのが仕事ですから、それが他府省庁にはない、大きな特色なのです。

「行政をよくする」行政マンを目指して



関東管区行政評価局茨城行政評価事務所
総務室

松下 絢美 Matsushita Ayami

平成21年4月 総務省採用
行政評価局政策評価官室
平成23年4月 現職

組織を支える仕事も

私は現在、茨城行政評価事務所という出先機関で会計や給与などの事務を担当しています。毎月の資金の中から職員に給与を支払い、必要な物資を調達し、同時に職員の出勤や休暇、福利厚生の管理も行うといった、お金と物と人に関する業務全般を担っており、華やかさこそありませんが、国民の税金からなる資源を無駄なく効果的に活用するという重要な役割を持っています。

行政機関は、いかに少ないコストで大きな成果を上げるか（効率性）ということを常に考えなければなりません。例えば一つの制度を周知したいとき、いくら効果が高くても全国でテレビCMを放送したり、職員を10万人動員したりすることは簡単にはできません。成果を上げるだけでなく、そこに投入するコストを意識しなければならないからです。

私は、各課室が限られた予算の中で最大限のパフォーマンスを発揮できるようにするための金庫番でありサポート役として、今日も電卓を叩いています。

所管制度を進化させる仕事も

私は以前、行政機関が自らの政策を評価し、よりよい企画立案につなげる政策評価という制度を所管する部署に所属していました。年に何度も有識者会議を開き、制度の在り方や評価の手法、結果などについて、行政学や経済学など様々な分野の専門家と意見交換を行い、そうした検討を踏まえた政令等の改正やガイドラインの策定も行いました。多様な意見を取り入れることが制度の進化に結実することを実感する貴重な経験となりました。

よりよい行政の実現のために

時代がどんどん変化する中で行政が国民からの信頼を確保するには、常に自らを省み、刷新していく必要があります。総務省は、政策評価制度や、組織や定員の管理、行政の電子化の推進などを通して、行政全体のマネジメント機能を果たしています。国民から見ても分かりやすいものではありませんが、信頼に足る組織の維持のためにはこうした機能が必要であり、自分も「行政をよくする」行政マンになりたい！と日々研鑽を積んでいます。

総合通信局での仕事を通して



北海道総合通信局無線通信部企画調整課

片山 静香 Katayama Shizuka

平成19年4月 総務省採用
北海道総合通信局総務部総務課
平成20年4月 北海道総合通信局情報通信部
電気通信事業課
平成21年8月 関東総合通信局総務部総務課
併任 情報通信政策研究所研究部
併任 情報流通行政局総務課
平成22年8月 現職

現在の業務

総合通信局では、情報通信を活用した地域の活性化、電気通信事業者や放送事業者の監督、無線局の免許・検査、電波利用環境の保護等の業務を行っています。

私が所属する企画調整課では、地域における周波数の管理、電波の有効利用の促進、無線局免許の電子申請の普及促進等の業務を行っています。

私はその中で、周波数の有効利用に資するための、電波を利用したシステムの技術的条件等に関する調査検討に係る業務に携わっています。この調査検討は、電波を利用した新しいシステム等について、試験的にシステムを構築して実証試験を実施し、その成果を技術基準・審査基準等に反映して、実際のシステムの導入を支援するものです。平成24年度は、平成24年4月からサービスが開始されたマルチメディア放送について、地下街等の閉鎖空間での効率的な送信システムに関する調査検討を行い、その技術的条件を報告書として取りまとめました。

職場の雰囲気

私は入局するまで電波に関する知識はほとんどありませんでしたが、周りの先輩や上司にアドバイスをいただくことができ、各種研修制度も充実しているため、とても働きやすい職場だと思います。

また、(特に女性の方へ) 職場では男女関係なく働くことができ、出産・育児の際には、産休や育休もしっかり取得することができるため、多くの女性職員が仕事と家庭を両立させて働いており、女性でも安心して働くことができると思います。

総務省の魅力

総務省では、日常生活にとっても身近な業務を行っています。中でも携帯電話等の情報通信は生活に不可欠なものとなっており、電波はその中で重要な役割を果たしています。

日々進歩している情報通信に関する業務に携わることで、様々な新しい知識を身につけることができ、また、幅広く人々の豊かな生活を支えることができるのが、総務省の魅力の一つだと思います。少しでも興味を持たれた方は、ぜひ総務省に足を運んでみてください。

小さな職場でも、価値ある仕事



沖縄総合通信事務所情報通信課

勝畑 豪

Katsuhata Go

平成20年4月 総務省採用
情報通信政策局衛星放送課
平成20年7月 情報流通行政局衛星放送課
平成21年9月 情報流通行政局衛星・地域放送課
平成22年5月 大臣官房会計課
平成24年4月 現職

地域の情報通信振興という仕事

私の所属する情報通信課では情報通信振興担当、電気通信事業担当、放送担当の3つに分かれています。私はその中でも主にICTインフラ整備や利活用推進を行う振興分野を担当しています。自治体やNPOに補助金・交付金を利用してもらうことで、人々がより便利で快適な生活を送れるようICTの面から援助していくことが主な仕事です。実際に、これまで整備してきた設備やシステムが適切に利用されているか、現地に赴いて各事業の現状確認をする作業を行っていました。いくつかの事業を視察していくと、しっかりと活用され軌道に乗っている事業では、人々が本当に望んでいるものは何か真剣に考えて行動する人が背景にいらして、そういった方々とのやり取りは私自身の刺激にもなる貴重な体験でした。自治体やNPOの方々と協力して情報通信社会を支えていくことは、総務省の仕事の中でも1つの大きな魅力であると思います。是非多くの方に興味を持っていただければ幸いです。

こんなイベントもやっています

私が特に面白いと感じた業務として沖縄デジタル映像祭というイベントがあります。これはCGやアニメーション等のデジタル映像作品を募集して審査・表彰するコンテストです。参加者は主に高校生や専門学校生で、周知等の際にはこれまであまり接点のなかった学校とのやり取りも多く、新鮮さを感じました。前回の映像祭では過去最多の応募をいただき、また次回は10回目を迎えることもあり、私も大いに期待しているイベントです。

少人数ならではの職場の魅力

沖縄の事務所は小規模な職場ですが、そのために他とは違った雰囲気があります。仕事においては人数が少ない分、1人1人の担当する分野は広くなりますが、お互いが協力し助け合いながら仕事をしています。

また、クラブや同好会も多くあり、職場外のつながりも強いです。少人数ながらも楽しく明るい雰囲気の中で日々を過ごすことができるのが沖縄の魅力ではないでしょうか。



Morinaga Keisuke

- 所属：行政評価局評価監視調査官
- 名前：森永 桂介 平成5年度入省

あなたにとって仕事とは

「目標達成の積み重ね」です。政策評価においては、必ず目標を掲げます。大きな政策目標の達成のために、困難を乗り越えつつ自分に課された目標を達成する喜び、その喜びの積み重ねが自身の成長の糧となっています。

求める人物像

経済社会情勢が常に変化中、その変化に対応し、国の仕事においても様々な課題の解決が求められます。その課題の解決のために何ができるかを様々な観点から考え抜ける方と一緒に仕事をしたいですね。

志望者へのメッセージ

皆さんには、国や国民のために〇〇をやりたい！という何か心に思い決めた「志」があるのではないですか？総務省には国民に身近な幅広い仕事がたくさんあります。是非、その熱い「志」の実現場所を見つけてください。



Hodaka Hiroyuki

- 所属：統計局国勢統計課課長補佐
- 名前：保高 博之 平成3年度入省

あなたにとって仕事とは

「自分自身を成長させてくれるもの」です。現在、統計業務を担当していますが、これまで、他省庁への出向も含め、人権問題や沖縄振興、高齢社会対策など様々な分野の仕事に携わってきました。悩むことや、つらい時期もありますが、振り返って見れば、どれも良い経験として自分の糧になっているような気がします。

仕事の極意

仕事では様々な場面で組織や個人との調整が必要となりますが、資料や話の中で表現されていない部分もあるので、「行間を読む」ことを意識しながら仕事をしています。

志望者へのメッセージ

総務省は国民に身近なところで幅広い仕事を担っています。皆さんの関心事の中から、何かしら総務省の政策に繋がるものが見つかるはず。やる気と協調性のある方をお待ちしています。



Ikegami Haruki

- 所属：上越市財務部長
- 名前：池上 治樹 平成6年度入省

あなたにとって仕事とは

「できない理由を考えるのではなく、どうしたら出来るか考えよう」。一番心に響いた市長の言葉です。一つ一つの仕事は小さくても、前向きな積み重ねが、より良い社会を、より良い地域を築いていくものだと考えています。

やりがいを感じた瞬間とは

係長時代に数十年の課題を解決する法改正に携わることができました。自分の仕事が1700ある地方公共団体に大きな影響を及ぼすことはプレッシャーでもありますが、達成感はそれ以上です。

志望者へのメッセージ

「総務省」という省名はわかりづらいですが、誰もが身近に感じることが出来る幅広い仕事があります。是非「総務省」の門をたたいてみてください。



Ishiguro Tomoaki

- 所属：自治財政局地方債課主幹
- 名前：石黒 智明 平成8年度入省

あなたにとって仕事とは

社会をよりよくするための手段であると同時に自己鍛錬の手段です。私が受け持っている仕事は直接何かを作ったり、守ったりするものではありませんが、地方公共団体が安心して住民サービスの維持向上を行うためになくてはならないものと実感しています。そのため、ますますよりよい仕事をしようと思い、自然と文章力、説明力、そして仕事で関わる人への思いやりが磨きがかかっていると感じています。

やりがいを感じた瞬間とは

平成23年度に創設された震災復興特別交付税の算定実務に携わり、具体的に算定の仕組みを構築できたことです。現地で直接お手伝いできるのがベストでしたが、間接的にでも被災地のために役立つ制度創設に関わったことにやりがいを感しました。

求める人物像

自分の考えを持ちつつ、真摯に他者の意見を聞ける人です。社会が複雑化し、価値観が多様化している今日、各地方公共団体では行政サービスのありかたに日々創意工夫が求められています。各地方公共団体が安心して行政サービスに専念できるよう、様々な意見を聞きながら問題を見極め、解決策を模索していこうという意欲のある方と仕事をしたいですね。



Doi Yoshiyuki

- 所属：大臣官房政策評価広報課広報室 広報報道専門官
- 名前：土井 義之 昭和61年度入省

あなたにとって仕事とは

人によって様々な考え方がありますが、仕事が楽しくうまくいくと非常に有意義な人生を送ることが出来るようになると思います。自分を成長させるための手段と言えるのではないのでしょうか。

仕事の極意

まずはよく知ることではないでしょうか。なぜこの仕事が必要か、この仕事がうまくいくにはどうすればいいか、この仕事をしたらどういう結果になるのか。分からなければ、誰でもいいから聞くこと、遠慮しないで人に頼ることです。

志望者へのメッセージ

毎年、今年の新人は〇〇型とか記事になります。正直10年前と大きく違うということはないのではないかと思います。型にはまらず、いろいろなことに興味をもつことが良いのでは。総務省は本当に幅の広い仕事をしますよ。



Kanda Takeshi

- 所属：情報流通行政局地域通信振興課 課長補佐
- 名前：神田 剛 平成5年度入省

求める人物像

各府省や企業の担当、大学の先生などと調整して政策に反映していくためには、きちんとコミュニケーションを取ることが出来る人が求められます。この点は、公務員でも民間でも同じだと思います。

やりがいを感じた瞬間とは

防災や地域活性化に関する施策を担当しています。以前関係者に説明した時には、なかなか賛同を得られなかったのですが、数ヶ月後「この施策の必要性がわかった」と言われた瞬間です。

志望者へのメッセージ

採用後の配属や業務は、希望どおりの場合もあれば、そうでないこともあると思います。でも、自分の糧になると思えばがんばってください。総務省は、気づかないうちに立派な行政マンをつくりあげる役所です。

総務省での経験を活かして市役所“経営”を



上尾市企画財政部参事

清水 啓太

Shimizu Keita

平成11年4月 自治省採用
大臣官房会計課

平成12年4月 財政局財政課

平成13年4月 宮崎県総務部地方課

平成15年4月 内閣府経済社会総合研究所
国民経済計算部国民支出課

平成17年4月 自治税務局企画課総務室人事係長

平成18年4月 自治税務局企画課調査係長

平成20年4月 自治税務局企画課企画係長

平成22年4月 上尾市企画財政部財政課長

平成23年4月 上尾市企画財政部次長

平成24年4月 現職

地方自治の最前線で行政経営

入省してから15年目を迎えました。霞が関では地方税財政制度の設計に携わり、宮崎県庁での勤務を経て、現在は上尾市役所で600億円を預かる財政の責任者をしています。行政を“経営”するという視点から、将来を見据え、見直すべきはしっかり見直すことにより強い財政基盤を確立するとともに、市民のために迅速な施策展開を実施するための予算を編成しています。市長に最も近いところで重要施策の創出・実行すること、すなわち、市役所での幹部を任されるということは、30代においては大変重責であり、時には厳しいことにも直面しますが、しかし、これらは霞が関で培った精神力や仕事に対する姿勢などあらゆる経験を最大限発揮することによって乗り越えてきました。ただ、それ以上に、心地よい緊張感と十分なやり甲斐に毎日が充実し、地方自治の最前線で現場主義の重要性を日々感じております。ここに総務省職員が地方で勤務する意味があるものと思います。

国と地方の様々なステージを経験

4年前の歴史的な政権交代後の混乱時、総務省にて地方税制度の改正を、仲間と一丸となって成し遂げたことが、自分を大きく成長させてくれました。また今年度、市の予算編成にて高齢者施策の見直しを行い、新たな事業を創出しつつも、現金給付である敬老祝金の縮減という、先を見据えた厳しい選択も行いました。このように総務省にはマクロ・ミクロの観点から様々な局面で力を出せるステージが用意されています。

国と地方の往来を通して得た財産

総務省では、地方自治制度における豊富な知識のほか、必要な解決力やスピード感、精神力などをしっかり身につけ、地方勤務ではそれらをフル活用して行政を“経営”します。その現場こそその視点や経験を、総務省の“地方を元気にする施策”に反映していくこととなるのです。国と地方の往来を通し、貴重な経験はもちろん、全国に多くの仲間をつくることができ、私にとってかけがえのない大切な財産となっています。

15万市民のために



各務原市都市戦略部企画財政総室財政課長

常木 孝浩

Tsuneki Takahiro

平成14年4月 総務省採用
消防庁総務課
平成15年4月 自治財政局地方債課
平成16年4月 栃木県総務部市町村課
平成18年4月 自治行政局自治政策課
平成20年4月 自治財政局財政課企画係長
平成22年4月 消防庁国民保護・防災部防災課
消防団係長
平成24年4月 現職

各務原市役所

総務省は、市町村との人事交流が活発です。私は平成24年4月から岐阜県の各務原市役所で勤務しています。市長が目指すのは、「市民が幸せを実感できるまち」。そのために積極的な事業展開と強い財政との両立が経営方針です。その中で私は、財政課長として、財政の健全性を堅持しつつ、積極的な事業が実現できる予算をつくるという大変重要な職責を与えられています。一般会計の規模は約400億円。本庁舎の立て替え、子育て支援、高齢者対策、公共交通対策など限られた財源をいかに効率よく住民サービスに使うか、事業部署と調整しながら形にしていきます。市長からは常に新しいアイデアを求められます。自分なりに課題設定し解決策を実施します。今年度は、税外収入の確保のため、ふるさと納税の強化に力を入れています。日々ワクワクしつつもチャレンジの毎日です。

ズバリ!やりがいがある!!

私にとってやりがいとは、「国民・市民のお役に立てる満足感」、「活躍の場所が与えられる充実感」、「大きな仕事をやり遂げる達成感」。その3つすべてが総務省にはありました。「世のため、人のために」、公務員を志した時に漠然と考えていたことが一つ一つ形になります。自分の経験やアイデアを実現するポジションが与えられます。国や地方での企画立案は、責任も重大だけに、その分大きな達成感を感じることができます。

幅広い活躍の場

各務原市の前は、消防庁で消防団の担当でした。東日本大震災では、暫くたった後も瓦礫からの小火に悩まされていましたが、被災地の消防団は津波で多くの消防車や消防ポンプを失ったため、大変な状態でした。そこで全国から消防車などを100台以上かき集め、点検・整備し、被災地に持ち込みました。少しでも気持ちよく使ってもらおうと、ピカピカに磨きあげました。消防車は、今でも被災地の消防を支えているはずです。

Be ambitious !!



筆者右から一番目

北海道総合政策部地域行政局市町村課

藤原 達展 Fujiwara Tatsuhiko

平成21年4月 総務省採用
自治税務局企画課総務室
平成22年4月 自治税務局企画課
平成23年4月 現職

地方自治の現場で思うこと。

私は今、北海道庁市町村課で働いています。総務省では若いうちから、地方自治の現場で勤務する経験を与られています。私も霞が関というフィールドから北海道という全く異なるフィールドで日々汗を流しています。

ここ北海道庁市町村課では、北海道内の市町村職員も数多く在籍しています。市町村の方々は日々、住民生活という現場で感じたことを教えてくれますし、自分が総務省で関わってきた制度についてどう感じているのか、数多くの示唆をいただいています。また、自分も市町村課というフィールドで仕事していく中で、「この制度はここを直せばもっとよくなるのではないか」と思うことも多くあります。

総務省で携わっていた施策を、現場からの視点という、今までとは異なる視点からとらえ直し、それをもとに再度総務省で、その施策を実態に即したものにしていけることができる。ここに総務省で働くことの大きなやりがいがあると思います。

総務省という職場

私は、霞が関での2年間は、自治税務局で地方税制度の企画・立案の仕事をしていました。当時、法人税率の引下げ等が、連日報道で大きく取り上げられていました。

その中で、私が作成した資料を基に税制調査会という場で議論され、政策として決まっていく。そういった場面に立ち会えたことは、緊張の連続ではありましたが、日々それ以上の充実感を味わうことが出来ました。

総務省の魅力とは？

総務省には、北は北海道、南は沖縄まで全国各地で様々な経験をしてきた多彩な人達があります。そして、それぞれが経験したことをもとに「地方をよくしたい」という大志を抱き、日々仕事をしています。

是非みなさんも、一度総務省に来て、職員が語る大志を肌で感じ取ってください。そして、我々と一緒に地方、ひいては日本全体を元気にしていくという大志を抱き、ともに働いてみませんか。

外へ飛びだそう!!



石川県総務部地方課

塚原 沙也加 Tsukahara Sayaka

平成22年 4月 総務省採用
自治体行政局行政課総務室
平成22年10月 自治体行政局選挙部管理課
平成24年 4月 現職

新米石川県人デビュー

総務省に採用されて3年目の春、北陸新幹線金沢開業へ向け盛り上がっている石川県へ出向となり、現在県内市町を元気にするお手伝いをしています。具体的には、自治体の財政状況の把握、地方債発行や特別交付税に関する業務等、市町の財政に関する仕事を担当しています。席に座ってパソコンとにらめっこをする日々ばかりではなく、県内市町への出張やヒアリング等で直接市町職員の方とお話する機会もたくさんあります。石川県には19の市町しかありませんが、19市町すべてにカラーがあり、「県」の立場での業務と併せて「石川県」の勉強をさせてもらっています。

生粋の江戸っ子の私が総務省を志望したのは、今まで縁のなかった東京以外の地方自治体を知りたいという思いがきっかけでした。外へ飛びだしてみないと出会えない人、体験できない業務がここにはたくさんあります。「地方自治とは？」という根本的な問いを今まさに実体験しているところです。

暮らしの隣りに

石川県内をまわると、自分の仕事に関連した事業等に出会うことができます。出張で能登半島方面を訪れた際、担当している地方債を充てて整備する予定の、対向車がすれ違うことのできないくらい狭い道や整備が行き届いていない農道等を実際に目の当たりにし衝撃を受けたことがあります。現場を自分の目で確認することにより、事業の重要性や現場住民の思い、自分の仕事の意味を再確認することができました。

人とつながり土地とつながる

総務省の仕事は全国へ開かれており、自分を輝かせる舞台も全国に広がっています。地方で勤務していると、市町職員から各団体のもつ個性や魅力、懸念事項や今後の課題等多岐にわたる話を聞くことができ、自分では気づくことができない地方自治の実態に直に触れることができます。

霞が関にただいるだけでは知り合うことのなかった人々と一緒に仕事ができ、地方の視点を学ぶ機会に恵まれているのは、総務省ならではの魅力です。

政策立案のための統計データ



京都府政策企画部調査統計課主任

大倉 一祥 Okura Kazuyoshi

平成16年10月 総務省採用
統計局総務課企画調整係
平成18年 4月 関東管区行政評価局総務部総務課
平成20年 4月 人事・恩給局総務課総括係
平成22年 4月 統計局統計調査部国勢統計課
住宅・土地調査第二係
平成23年 4月 現職

データに基づいた政策形成

先日、「女性の給与は男性の給与の7割」というニュースを見かけました。この言葉を聞いて皆さんはどう思いますか。「男女格差はなくすべき」と思う方も多いでしょう。でも、ちょっと待ってください。この「7割」という数字は年齢や勤続年数が考慮されていません。この言葉だけを鵜呑みにして政策を打ち出すのは早計です。

「3人に1人が非正規雇用者」という言葉も良く目にしますが、あれも男女・年齢別に見るとまったく異なった姿が見えてきます。男性の場合、非正規雇用者のうち4割近くが60歳以上の方です。

新聞やテレビなどで良く統計データを目にしますが、単に統計データを使えば良いというわけではありません。1つの角度からだけでなく、様々な角度から現状を分析しなければ正しい姿は見えてこないのです。

効果的な政策を行うために、国で作成している統計をどのように活かしていくか。私は現在、京都府でそのような仕事をしています。

人を育てる

「『この案件はどうすれば良いですか?』と上司に聞くのではなく、間違っても良いから、まず自分の頭で考えること。その上で『私はこのようにすれば良いと思うのですが、どうでしょうか?』と相談すると成長できるよ。」

入省して半年位の頃に言われた言葉です。8年ほど前のこの一言を良く覚えています。部下を自分の駒として見るのではなく、一人の人間として成長させていこう。そう感じることができる職場です。

色々な分野の仕事がしたい

「せっかく国で働くのだから、色々な分野の業務を経験してみたい!」

これが、私が総務省に入省した理由です。他の省庁は名前から業務内容がある程度想像できます。では総務省は?統計や国家公務員制度、地方自治、通信関係など、他の省庁と違い、名前だけでは分からないくらい多種多様な業務を行っています。

様々な分野の仕事を経験できる。そこが総務省の魅力のひとつだと私は思います。

会計検査院での経験



会計検査院第3局国土交通検査第2課
調査官

原田 基紀 Harada Motoki

平成14年4月 総務省採用
関東管区行政評価局
平成19年4月 神奈川行政評価事務所行政相談課
平成22年4月 東京行政評価事務所
年金記録確認東京地方第三者委員会
事務室
平成23年4月 行政評価局財務・経済産業等担当室
平成24年4月 現職

問題を究明し、改善につなげる仕事

私は総務省で採用され、昨年4月から会計検査院に出向しており、現在は主に国土交通省航空局が所掌する事業を対象とした検査業務に従事しています。

官庁訪問をしている皆さんなら御存知の方も多いと思いますが、会計検査院は内閣から独立した立場で国の会計経理を検査する機関です。会計経理の検査といっても、金銭の出納など狭い範囲に限定されるものではなく、税金が投入され実施された事業についても検査の対象としています。また、違法不当な事態を指摘するのみではなく、問題の発生原因を究明し、改善の処置を要求することもあります。

私が総務省で以前従事していた行政評価局の調査業務と会計検査院の検査業務では、行政機関等に対する現地調査（実地検査）などにおいて問題点を把握・分析するための観点や手法に共通するところがあるため、総務省での経験が現在の会計検査院での検査業務にも役立っています。

地道な作業も貴重な経験に

会計検査院では、特別会計財務書類の検査にも携わる機会がありました。帳簿などの根拠資料と突合したり、計数の整合を確認したりといった地道な作業が中心の検査でしたが、計上金額の誤りが明らかとなり財務書類の訂正につながった点にやりがいを感じました。

総務省では携わったことのない業務だったので、業務の幅を広げる上で良い経験になりました。特に自分が財務書類を作成する立場になった場合には今回の経験が役立ちます。

総務省で働くことの魅力

総務省の魅力。それは幅広い業務内容ではないでしょうか。

私の場合、総務省に採用されてから10年間で、行政評価局調査、行政相談、年金記録問題への対応などの業務を経験しました。今回の出向の機会も含め、様々な業務を経験する機会をいただきましたが、今挙げた業務は、総務省職員が経験できる業務の中でもほんの一握りです。

好奇心が旺盛で、常に新しい業務に挑戦したいと考える方には総務省がおすすめです。

ペルーにおける地デジの普及を願って



在ペルー日本国大使館二等書記官

小林 信一 Kobayashi Shinichi

平成13年4月 総務省採用
総合通信基盤局総務課
平成15年8月 大臣官房総務課
平成17年8月 関東総合通信局総務部総務課
平成18年8月 情報通信政策局総務課
平成19年7月 情報通信政策局衛星放送課企画係長
平成20年7月 情報流通行政局衛星放送課企画係長
平成21年7月 情報通信国際戦略局国際政策課総括係長
平成23年9月 情報通信国際戦略局国際経済課
中南米経済係長
平成24年5月 現職

ペルーにおける地デジ普及を願って

私は現在外務省に出向し、南米のペルー・リマにある日本国大使館で勤務しています。主な担当分野は、有償資金協力（円借款）、日本企業支援、経済、財政金融、そして情報通信です。

日本とペルーは長年良好な関係を有していますが、2009年4月に、情報通信の分野で大きな出来事がありました。ペルーが地上デジタル放送方式として、日本方式を採用したのです。その後、日本の協力もあり、2010年3月には首都リマにおいて放送が開始され、今後地方への普及が計画されています。

ペルーは近年経済発展が目覚しく、リマ中心部に住んでいる分には不便は感じませんが、一方で地方との格差は日本人の想像を超えるものがあります。ワンセグやデータ放送、緊急警報放送などの優れた特長を持つ日本方式による地デジの普及は、情報通信分野の格差を是正し、ペルーの発展に資するものとして期待されており、私も地デジ先進国である日本の経験等を伝えるべく、専門家派遣などの各種協力に取り組んでいます。

最近印象深かった業務

本年2月末に、リマにおいて、ペルー全放送事業者を対象に地デジ普及のためのセミナーをペルーの運輸通信省、日本の総務省、JICA、JETRO と共催で開催しました。日本側とペルー側の仕事の進め方の違いもあり、準備には苦労も多かったのですが、当日はペルー関係者の関心の高さを反映して大盛況。とても役立った、開催してもらってありがとう、といった声を聞き、疲れも一瞬にして吹き飛びました。

総務省の魅力

総務省には「実はここにも総務省」というキャッチフレーズがあるくらい、多くの業務があります。好奇心が旺盛で、自分の視野を広げたい方にはお勧めの職場と思います。私も入省後、電波、放送、国際といった分野の業務やメキシコ留学など、様々な経験をさせてもらい、今は南米の大使館で、更に視野を広げているところです。少しでも興味を持たれた方、ぜひ総務省の扉を叩いてみてください。

メキシコの真っ青な空の下から



筆者前列まん中

日墨交換留学生(メキシコ国立自治大学)

日上 俊祐

Hikami Syunsuke

平成18年10月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部
消費者行政課
平成20年 7月 大臣官房秘書課
平成22年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部
高度通信網振興課
平成24年 8月 現職

メキシコでの研修

現在、私は日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画の研修生として、メキシコ国立自治大学に留学し、日本からおよそ1万キロ離れたメキシコシティの真っ青な空の下、幅広い国際的な視野を身に付け、今後の総務省の政策立案に貢献すべく、人種、職業、年齢等バックグラウンドの異なる各国からの同級生達と、スペイン語及びメキシコ文化等の習得に日々励んでいます。

日本から遠く離れたここメキシコシティにおいても、日本の家族や友人達とリアルタイムで連絡を取り、日本の情報を瞬時に確認できるなど、ICTの発展が世界を劇的に変えていることを実感しています。このように社会をより便利に、より豊かに変えていく情報通信に携わることができるのが総務省の醍醐味です。

総務省には、日本をより良くしたいという強い思いを実現する舞台が整っています。絶え間ない成長の場を与えてくれる総務省で来年ぜひ皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

印象深い業務

昨年まで所属していた高度通信網振興課において、ICTを活用した豊かな社会の実現を目的とする法改正や政策減税の要望に携わったことです。現在ICTは日常生活に必要不可欠なツールとなっており社会に与える影響も非常に大きいものとなっています。総務省という時代の最前線に関わる職場で、政策を実現するための制度設計に携われたことは、日本の情報通信政策の一翼を担っているというやりがいを実感でき、大変印象に残っています。

働きやすい職場

私はこれまで三つの課を経験してきましたが、総務省には上司、先輩や後輩とも、何でも相談しやすく、率直に意見や考えを話し合える、フランクで働きやすい温かい雰囲気があります。また、時には厳しく、時には優しく指導して下さる先輩方が多く、人を育てる雰囲気もあります。日々の業務において、過酷な作業が発生することもあります。上記のような雰囲気がある職場だからこそ、適切に対応することができるのだと思います。

Q 最近の採用実績は？

A 平成24年度一般職試験合格者からの採用者数は本省が39人、地方支分部局が14人となっています。本省採用者は本省内の各部局や東京都内の各機関に配属されます。地方支分部局採用者は、採用された地方支分部局に配属されます。過去3年間のⅡ種試験合格者、一般職(大卒程度)試験合格者の採用者状況は以下のとおりです。

	本省採用者	地方支分部局採用者	
		管区行政評価局 行政評価事務所	総合通信局 総合通信事務所
22年度	60(21)	6(2)	3(0)
23年度	51(14)	11(4)	0(0)
24年度	39(11)	8(1)	6(1)

★人数は各年度の国家公務員Ⅱ種採用者、国家公務員一般職(大卒程度)採用者数 ★カッコ内は女性の内数
※各年度試験には10月等に採用された人も含まれます。

Q 総務省ではどのような人材を求めていますか？

A 総務省は、人事制度・行政管理・行政評価・地方自治・情報通信・郵政行政・統計・消防防災といった非常に幅広い分野の業務を行っています。したがって、採用された方には、こうした様々な分野の業務や社会経済情勢の急速な変化に、柔軟に対応が可能な人材を求めています。

Q 採用はどのように決定するのですか？

A 採用担当者とあなたとの面談を積み重ねて、あなたの長所・やる気・可能性などを総合的に判断して決定します。面談による人物本位の選考を行いますので、積極的に訪問していただき、あなたの魅力をアピールしてください。

Q 最初に配属されると、ずっとその部署で勤務するのですか？

A 配属された部署によって異なりますが、多くの人は2～3年に一度、別の部署へ異動することとなります。本人の希望・適性に応じて異動し、採用地以外の勤務地へ転勤する場合があります。

Q 子育てに関し、どのような支援がありますか？

A 女性職員の産前・産後休暇の取得はもちろん、男性職員も含め、子供が3歳になるまで育児休業を取得することができます。また、働きながら育児をするための勤務時間制度も用意されています。他にも、テレワークが可能な部署もあります。

Q 採用後の研修は？

A 採用時に新任者研修を行うほか、業務に関連した研修や希望者を対象とした専門研修・昇進時の研修など様々な研修があります。

Q 採用後のキャリアアップについて教えてください。

A 一般職で採用となる職員は、入省後、内部部局の課・室において、係員・係長・課長補佐等として、本人の希望や適性に応じて、主に特定分野の業務(例えば行政管理、地方自治、放送行政、情報通信行政、統計など)を中心に担当することになります。ただし、必ずしも特定分野の業務のみではなく、キャリア形成の過程で、大臣官房やそれ以外の業務を担当したり、本省と地方支分部局を行き来する場合があります。また、都道府県や市町村の幹部職員ポスト等への派遣、他府省等や海外の在外機関への出向、国内外の大学等への留学の機会もあります(2～3ページもご覧ください)。

Q 総務省の具体的な業務内容を聞きたいのですが、どうすればいいですか？

A 総務省では、平成24年度を例にとると、総務省独自の業務説明会(7月2日～6日)、人事院主催の合同説明会(全国各地での一般職各府省合同業務説明会、霞ヶ関OPENゼミ)等を行いました。また、いくつかの大学においても業務説明会を行いました。

平成25年度も、同様に説明会を開催いたしますので、総務省ホームページ内の採用情報にて開催日程をご確認ください。

【総務省ホームページ 採用情報】

http://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html



【人事院ホームページ

国家公務員試験採用情報NAVI】

<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>



Q 福利厚生等はどうなっていますか？

A 総務省に採用されると、総務省共済組合に加入することになり、医療給付等を受けられるほか、全国各地にある共済施設が利用できます。また、住宅資金の貸付制度もあります。

平成16年4月には、本省庁舎内に、食堂を含む新しい施設が増設され福利厚生が更に充実しました。



本省庁舎内にある「総務省共済組合診療所(歯科・内科)」。急に歯が痛くなったり体調が悪くなったときでも安心です。



本省庁舎内には、ドラッグストアや、クリーニング店、コンビニエンスストア、各種飲食店などがあります。

内部部局

大臣官房	秘書課 総務課 会計課	企画課 政策評価広報課	人事・恩給局	総務課 人事政策課 公務員高齢対策課 恩給企画課	恩給審査課 恩給業務課 参事官(5)
行政管理局	企画調整課 行政情報システム企画課 管理官(8)		行政評価局	総務課 行政相談課	政策評価官 評価監視官(9)
自治行政局	行政課 住民制度課 市町村課 地域政策課 地域自立応援課	公務員部 公務員課 福利課 選挙部 選挙課 管理課 政治資金課	自治財政局	財政課 調整課 交付税課 地方債課 公営企業課 財務調査課	
自治税務局	企画課 都道府県税課 市町村税課 固定資産税課		情報通信 国際戦略局	情報通信政策課 技術政策課 通信規格課 宇宙通信政策課	国際政策課 国際経済課 国際協力課 参事官(3)
情報流通 行政局	総務課 情報流通振興課 情報通信利用促進課 地域通信振興課 放送政策課 放送技術課 地上放送課	衛星・地域放送課 情報通信作品振興課 郵政行政部 企画課 郵便課 貯金保険課 信書便事業課	総合通信 基盤局	総務課 電気通信事業部 事業政策課 料金サービス課 データ通信課 電気通信技術システム課 高度通信網振興課 消費者行政課	電波部 電波政策課 基幹通信課 移動通信課 衛星移動通信課 電波環境課
統計局	総務課 統計情報システム課 統計調査部 調査企画課 国勢統計課	経済統計課 経済基本構造統計課 消費統計課	政策統括官 (統計基準担当)	統計企画管理官 統計審査官(3) 国際統計管理官	
			政策統括官(情報通信担当)		

施設等機関、特別の機関、地方支分部局、外局

自治大学校		情報通信政策研究所	統計研修所	公害等 調整委員会	総務課 審査官(9)
管区行政 評価局	北海道管区行政評価局 東北管区行政評価局 関東管区行政評価局 中部管区行政評価局 近畿管区行政評価局	中国四国管区行政評価局 四国行政評価支局 九州管区行政評価局 沖縄行政評価事務所	総合通信局	北海道総合通信局 東北総合通信局 関東総合通信局 信越総合通信局 北陸総合通信局 東海総合通信局	近畿総合通信局 中国総合通信局 四国総合通信局 九州総合通信局 沖縄総合通信事務所
消防庁	総務課 消防・救急課 予防課	国民保護・防災部 防災課 参事官(3)	政治資金適正化委員会	電気通信 紛争処理委員会事務局	

★内部部局、施設等機関、地方支分部局及び外局を記載している。この他にも関係機関がある。

採用予定部局 **総務本省** ※消防庁を含む

採用窓口	連絡先
事務系 大臣官房 秘書課人事係	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館7階 03-5253-5111(代)(内線)21183, 21187, 21197 03-5253-5073・5074・5075(直)
技術系 【情報通信分野】 総合通信基盤局 電波部電波政策課	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館10階 03-5253-5873(直)
【統計分野】 統計局 総務課人事係	〒162-8668 新宿区若松町19-1 総務省第2庁舎 03-5273-1118(直)

採用予定部局 **管区行政評価局**

採用窓口	連絡先
北海道管区行政評価局 総務課	〒060-0808 札幌市北区北八条西2丁目 札幌第1合同庁舎 011-709-1802(直)
東北管区行政評価局 総務課	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎 022-262-7831(直)
関東管区行政評価局 総務部総務課	〒330-9717 さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館 048-600-2302(直)
中部管区行政評価局 総務課	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館 052-972-7411(直)
近畿管区行政評価局 総務部総務課	〒540-8533 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎第2号館 06-6941-3431(直)
中国四国管区行政評価局 総務課	〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎第4号館 082-228-6172(直)
四国行政評価支局 総務課	〒760-0068 高松市松島町1-17-33 高松第2地方合同庁舎 087-831-3101(直)
九州管区行政評価局 総務課	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-11-1 福岡合同庁舎 092-431-7081(直)
沖縄行政評価事務所 総務課	〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎 098-866-0145(直)

採用予定部局 **総合通信局**

採用窓口	連絡先
北海道総合通信局 総務部総務課	〒060-8795 札幌市北区北八条西2丁目1-1 札幌第1合同庁舎 011-709-2311(代) (内線)4607
東北総合通信局 総務部総務課	〒980-8795 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎 022-221-0606(直)
関東総合通信局 総務部総務課	〒102-8795 千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎22階 03-6238-1625(直)
信越総合通信局 総務部総務課	〒380-8795 長野市旭町1108 長野第1合同庁舎 026-234-9964(直)
北陸総合通信局 総務部総務課	〒920-8795 金沢市広坂2-2-60 金沢広坂合同庁舎 076-233-4413(直)
東海総合通信局 総務部総務課	〒461-8795 名古屋市東区白壁1-15-1 名古屋合同庁舎第3号館 052-971-9106(直)
近畿総合通信局 総務部総務課	〒540-8795 大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎第1号館 06-6942-8507(直)
中国総合通信局 総務部総務課	〒730-8795 広島市中区東白島町19-36 082-222-3306(直)
四国総合通信局 総務部総務課	〒790-8795 松山市宮田町8-5 089-936-5012(直)
九州総合通信局 総務部総務課	〒860-8795 熊本市春日2-10-1 熊本地方合同庁舎 096-326-7809(直)
沖縄総合通信事務所 総務課	〒900-8795 那覇市旭町1-9 カフーナ旭橋B-1街区 5F 098-865-2301(直)

総務省

Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)



■所在地■

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館
tel 03(5253)5111(代)

■交通アクセス■

東京メトロ丸の内線・日比谷線・千代田線「霞が関」駅下車 **A2** 出口徒歩1分
有楽町線「桜田門」駅下車 **4** 番出口徒歩3分
銀座線「虎ノ門」駅下車 **6** 番出口徒歩約8分

■ホームページ■

<http://www.soumu.go.jp/>